

授 業 科 目 の 概 要			
(外国語学部 現代英語学科)			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
教 養 科 目	キリスト教学	この授業は、本学の建学の精神であり、また欧米の歴史や文化に多大な影響を及ぼしてきたキリスト教についての基礎的・教養的な知識を身につけることをねらいとする。授業では、キリスト教の教典である『新約聖書』の「ルカによる福音書」を自分で実際に読む。そして理解のポイントとなる事項を解説しつつ、グループワークを通して読者(学生)自身が相互にその理解を比較・検証しながらイエスの生涯を学ぶ。	
	キリスト教学	キリスト教学 とともに、本学の建学の精神に関する授業であるこの授業もまた、キリスト教についての基礎的・教養的な知識を身につけることをねらいとしている。授業では、『新約聖書』の「使徒言行録」をテキストとして用いて、理解のポイントとなる事項を解説しつつ、グループワークを通して読者(学生)自身が相互にその理解を比較・検証しながら原始キリスト教会の誕生・展開について学ぶ。	
	グローバリゼーションと多文化共生	本講義は、グローバル化した現代世界における文化、社会の諸問題について、オムニバス方式により、複数の教員で分担して実施する。担当教員及び取り上げるトピックとしては以下とおり。 (オムニバス方式/全15回) (現代英語学科1 石川昭仁/5回) グローカリゼーション、グローバリズムとローカリズム、非英語圏での共通語としての英語使用。 (国際コミュニケーション学科2 戸口民也/5回) ヨーロッパにおける多様性と一致、多文化共生の試み、異文化理解の基本。 (国際コミュニケーション学科15 松本充豊/5回) 東アジア文化圏におけるグローバリズムとローカリズム、グローバリズムが多文化主義か、東アジアの方向性。	
	グローバリゼーションと多文化共生	に続いて、グローバル化した現代世界における文化、社会の諸問題について、オムニバス方式により、複数の教員で分担して実施する。担当教員及び取り上げるトピックとしては以下とおり。 (オムニバス方式/全15回) (現代英語学科4 山川欣也/5回) グローバリズムと反グローバリズム、トランスナショナルということ、国境を越えるポップ・カルチャー。 (現代英語学科11 Sebastian Sainoo-Fuller/5回) 英語の多様性、文化を越えた共通語としての英語、日本とヨーロッパ、「橋を架ける」ことの意味。 (国際コミュニケーション学科14 磯部靖/5回) 近代化への圧力と伝統文化とのせめぎ合いについて、中国の事例を通じて考える。	
	情報処理演習	本演習では、あらゆる場面でコンピュータを使いこなす技能を身に付けさせることを目標とする。講義で概念、動作原理を理解した後、各自がコンピュータを操作し演習課題を実行する。主な演習内容は次の通りである。コンピュータの基本操作、エディタの使用と和文・欧文入力、プログラミング言語演習、ワープロソフトを用いた文書作成、表計算ソフトを用いた計算処理等である。	
	情報処理演習	情報処理の体系を築いている思考方法を獲得させるために、あらゆる場面を想定した演習に取り組んでおくことが必要である。本演習では、データ処理、グラフィックス、電子メールの送受信、インターネットへのアクセス、データベースの利用、電子ニュースサービスの利用、ホームページ作成法等である。	
	スポーツ	スポーツの実践を通して、スポーツへの理解を深めるとともに、自己の身体への関心を高める。また、グループでのスポーツ活動で求められる個々人の基本的態度について理解する。個人種目を中心に実践し、それぞれの種目での技術・戦術の獲得、ルール理解、ゲームの楽しみ方を学習する。	
	スポーツ	スポーツの実践を通して、スポーツへの理解を深めるとともに、自己の身体への関心を高める。また、グループでのスポーツ活動で求められる個々人の基本的態度について理解する。球技系のスポーツで特に集団種目を中心に実践し、それぞれの種目での技術・戦術の獲得、ルール理解、ゲームの楽しみ方を学習する。	

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
教 養 科 目	哲学	自然学から、ソフィストの出現、そしてソクラテスの出現によるプラトン、アリストテレス哲学への発展がどのように現代哲学と重なり合っているか、そして同時に、ポリスと深く関係したギリシャ哲学が、現代思想とどのように繋がっているか等、まずギリシャ哲学の歴史を研究しながらギリシャ哲学が提出する現代的諸問題を考察する。	
	哲学	現代哲学の基本姿勢は現象学によって提出された「事実そのものへの還帰」によって代表されているといっても過言ではない。現象学によって触発された現代哲学の諸相はそのままわれわれの研究課題である。デカルトから始まる近代哲学の潮流の中で、特に、キェルケゴール、ニーチェ、フッサール、ハイデッガーなどの哲学を通して学んでいく。	
	歴史学	日本の古代都市を取り上げる。都城・大宰府・国府について、歴史地理学・考古学・文献史学等の成果を取り入れながら、その景観を復元的に考察した上で、そこに象徴された古代人の世界観を探究する。また、都城については、日本独特の行為である遷都の意味についても考える。国府については、そのすべてを取り上げることにはできないので、研究史上重要なものにしばって説明した後、特に西海道（九州）の国府について考察する。	
	歴史学	日本古代の道路について取り上げる。従来、日本の古代官道は、屈曲の多い小路と考えられてきたが、近年の歴史地理学・考古学の研究の進展によって、直線的な大道であったことが判明した。本講義では、古代官道について復元的に考察した上で、それらが律令国家の地域計画の基準線としても機能したことを明らかにする。さらに、駅路と伝路の複線的な意味について述べた上で、律令国家にとって官道がはたした象徴的な意味について考察する。	
	文学	宮沢賢治の童話作品は、日本の近代文学史の上で、特異な位置を占めている。本講義では、具体的に個々の作品を読みながら、その宗教性、自然性、音楽性などに注目する。また、賢治童話に独特な作品の転生 推敲の問題 についても取り上げる。その上で、日本の近代文学の中で、賢治童話のもつ意味について考察する。今年度は、特に賢治が生前唯一出版した童話集である『注文の多い料理店』に収められている作品を取り上げる。	
	文学	宮沢賢治の詩（心象スケッチ）について講読する。賢治は、自分の詩を詩とは呼ばずに心象スケッチと称したが、その背後には彼独自の創作における方法論が存在した。本講義では、特に発生論的な視点から心象スケッチを読むことによって、その方法論の意味について考察する。今年度は、特に賢治が生前唯一出版した心象スケッチ集である『春と修羅』（第1集）を取り上げる。なお、童話との関係についても留意したい。	
	美術史	ルネッサンスの芸術論、例えばアルベルティの「絵画論」、レオナルドの諸手稿、あるいはピエロ・デラ・フランチェスカの「絵画の遠近法」等を取り上げ、イタリア・ルネッサンス絵画の理論と実践について考える。	
	美術史	西洋美術史上のいくつかの現象を取り上げ、人間の美的営為について考える。一例としては、レンブラントの自画像について、レンブラントにとって自画像はどのような芸術的意味をもっていたのか等について考える。	
	法学（日本国憲法）	本講義は、日本国憲法における「統治機構」および「基本的人権」の基本的事項について解説をおこなう。とくに、憲法と諸法令との関係や新しい判例の動向などを探りながら検討をすすめていく。さらに、現代社会における諸問題を素材として、憲法がそれらとどのようにかわりをもつか、さまざまな角度から検討を試み、社会生活の中の“生きた憲法”について理解を深めることを目標とする。	
	法学	本講義は、現代社会におけるさまざまな法的諸問題について、どのように法的ルールが適用されてその解決が図られているかを検討する。とくに、刑事事件および民事事件における具体的な判例を素材として、われわれの社会生活における法制度の理解と法的思考能力を養うことを目標とする。身近な法律問題に対する認識能力を高めつつ、平成21年から導入される裁判員制度についても理解を深めていく。	
	政治学	社会科学としての政治学について学ぶ。政治とは何かを理解する手助けとなるよう、国家、政治制度、政治過程といった現代政治の基本的な概念や理論を取り上げ、国際化が進む社会を視野に入れながら、身近な現実の政治問題と関連づけて考察していく。	
	政治学	政治と経済との関係は、政治学における重要なテーマである。基本的な概念やアプローチを紹介したうえで、工業化と権威主義支配との関係、民主化・民主主義体制と経済政策、グローバル化の影響といった問題を軸に、各国の政治経済の特徴を学ぶ。	

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
教 養 科 目	経済学	ミクロ経済学・マクロ経済学の基礎的な知識の講述を行う。またこの講義を通して、社会科学的な発想・視点の習得をめざす。	
	経済学	「経済学」の知識を前提とし、日本経済・国際経済についてのさまざまな課題を、平易に解説すると共に、社会への関心を高めることを目指す。	
	社会学	社会集団、社会過程（結合、支配、紛争）、社会構造、社会変動について、さまざまな具体的事例を通して考える。取り上げる事例は、性差別、環境問題、市民運動、経済制裁と構造的暴力、死刑制度と冤罪などである。適宜ビデオを用いる。	
	社会学	環境問題と南北問題についてさまざまな具体的事例を通して社会的に考える。取り上げる事例は、原子力開発、ダム開発、ユーカリ植林、遺伝子組み換え作物などである。適宜ビデオを用いる。	
	社会福祉論	われわれの日常生活に密着した社会福祉の諸問題を取り上げながら、生活に役立つような「福祉」のあり方や考え方（理念）について学習する。取り上げるトピックとしては以下のようなものがあげられる。 児童虐待、老老介護、ネットカフェ難民などの諸問題への社会福祉からのアプローチ。	
	社会福祉論	に続いて、われわれの日常生活に密着した社会福祉の諸問題を取り上げながら、生活に役立つような「福祉」のあり方や考え方（理念）について学習する。取り上げるトピックとしては以下のようなものがあげられる。 少子高齢社会、認知症への対応、介護保険制度の問題点などへの社会福祉からのアプローチ。	
	心理学	心理学の研究対象は、人間の意識や行動すべてに関するものであり、知覚（認知）・記憶・学習・発達・適応など、多様な領域に渡っている。日ごろのわたしたちの何げない意識や経験・行動には、いろいろな「不思議」が詰まっている。心理学とはその「不思議さ」を発見し、人間を意識や行動の領域から解明していく学問でもある。心理学は、人間の意識や行動の「不思議さ」の追究をめざすものであるが、ひいては、人間の豊かな生に結びつくものである。本講義では、人間の意識や行動について心理学でもたらされた知見を学びながら、人間についての理解を深め、自己や他者のあり方についての洞察の契機を得ることを目的とする。	
	心理学	心理学では、最近話題になっているメンタルヘルスについて取り上げる。自殺が多く、うつ（状態）の人々の増加が報告されている。こうした状況は、人々の社会への適応が困難であることを示している。この授業では、現代のメンタルヘルスの実態を把握したうえで、人々の適応が困難な理由について、現代の子どもや青年をはじめとする人々の発達の状況、人格発達理論、社会・文化的な背景などをもとに、考察していく。同時に、自己や他者のメンタルヘルスの向上に関与するカウンセリング理論やカウンセリングの実践方法を学ぶ。	
	生命科学	地球上の生命は、どのように誕生し、どのように暮らし、どのように変わってきたのか。この授業では、生命が見せる複雑な現象について、「どうしてそうなるのか？」を考えながら理解を深めていく。では「進化の仕組み、植物の生態、協力的行動の進化」に重点を置く。	
	生命科学	地球上の生命は、どのように誕生し、どのように暮らし、どのように変わってきたのか。この授業では、生命が見せる複雑な現象について、「どうしてそうなるのか？」を考えながら理解を深めていく。では「生物種間の関係、性の進化、生態系の保全」に重点を置く。	
	地球環境論	現在の地球環境がいかに生物と密接な関係の基に成り立っているかを、生命誕生の歴史から理解させる。生命がいかに環境の変動と調和を保ちながら進化したか、また、生物の進化にとって、他の生物との共生がいかに大切であったかを事例をあげて解説する。そして、現在のエネルギー源の大部分が化石資源に頼っていることを理解させる。この講義を通じて、人類が、進化の歴史においていかに特殊な生物であり、人類の更なる発展のためには、他の生物種は持ち合わせていない人類だけが持っている英知を働かせて地球環境を保全しなければならないかを、理屈としては勿論、感性でも解らせるようにする。	

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
教 養 科 目	地球環境論	近代文明の進化によって、人類の生活による環境汚染が単なる地域の問題から、地球全体の環境問題になりつつあることを理解させる。すなわち、地球環境をいかに保全し、これ以上の悪化を防ぐことが将来の人類の生存・発展のために不可欠であることを理解させる。水域の富栄養化、2酸化炭素の蓄積、地球温暖化、環境ホルモン、等の近代社会の発展を脅かす近代社会がもたらした環境変化の科学的根拠を説明する。地球環境の保全が不可欠とは言え、人類の更なる発展のためには、開発との調和を保ちながらの環境保全が求められることを理解させる。	
	自然科学史	自然科学の発展を歴史的にたどりながら、人類が対象としての自然をどのように認識してきたかについて考察する。とくに現代科学技術の源となる近代科学の特徴、発展過程について詳しく学ぶこととする。具体的に授業では、資料をもとに、当時の一般的な自然観と見なされている自然科学者の自然観を知り、あわせてその解釈の可能性や変遷について考察する。特に、古代の数学や天動説、ニュートン力学、電磁気学の歴史については、詳しく見ていくこととする。	
	自然科学史	自然科学と社会との関係史を学ぶ。社会制度、思想・宗教との相互作用や、科学者および集団との相互作用について取り上げ、これまで漠然と考えられてきた常識を覆す。また、古代ギリシアから18世紀の産業革命までの科学技術の発達を概観した上で、その影の面としての環境破壊が各時代でいかに生じてきたかを理解する。このことは、21世紀のキーワードの1つである環境保全にどう対応していくかについて、重要な示唆を与えるであろう。	
	【日本語リテラシー科目】		
	基礎演習	基礎演習 及び の授業目標は、大学で「学ぶ」ための基本技術の習得である。基礎演習 では、そのために必要な9つの力「聴く・読む・調べる・整理する・まとめる・書く・表現する・伝える・考える」のうち、「聴く・読む・調べる・整理する・まとめる・書く」力の習得を目指す。授業内容としては、1)ノート・タイピング 2)リーディングの基本スキルの習得 3)大学図書館における情報収集 4)インターネットによる情報収集 5)アカデミック・ライティングの基本スキルの習得、などを扱う。	
	基礎演習	基礎演習 では、大学で「学ぶ」ために必要な9つの力「聴く・読む・調べる・整理する・まとめる・書く・表現する・伝える・考える」のうち、「書く・表現する・伝える・考える」力の習得を目指す。授業内容としては、1)ワープロを使ったレポート作成技術の習得 2)プレゼンテーションの基本スキルの習得 3)プレゼンテーション・ツールの活用（スライドからPowerPointまで）などを扱う。	
	日本語表現法	日本語表現法は、～を必修とすることで、今の学生に劣っているといわれる「書く力」を徹底的に鍛え、社会に送り出そうという狙いである。 では、小論文と作文（エッセイ）の書き方を教え、書くことの実践をさせる。小論文の出題の仕方が、課題（名詞句）提示と課題文の提示では書き方が異なることを知らない学生もあり、事例を読ませながら、違いを学ばせる。もちろん、作文は小論文とはまるで書き方が異なり、小論文のように「論ずる」のではなく「語る」ことの大切さ、面白さを習得させる。講義と書く実践を交互に繰り返し、実力をアップさせる。	
	日本語表現法	で行った小論文と作文の書き方の講義と実践を重複させながら繰り返し行い、本物の確固たる実力へと押し上げていく。の単なる繰り返し授業とならないように、小論文、作文の文章力を手紙文やメール送信文等々に応用させる授業も、実践を交えて行う。	
	日本語表現法	、で培った力をさらに推し進めて、レポートや論文の書き方をでは行う。読書レポート、調査・研究レポート、さらには論文の書き方を講義しながら、実際にレポート（或いは短い論文）を書かせて、口頭発表へと繋げていく。ここでは、文章力にとどまらず、書籍に書いてあることを的確に把握する力、その書の主張に対する自己の考えの形成（批判力）、それをまとめ上げる力を養う。また、与えられた課題について資料や情報を集める調査・研究能力等をアップさせる狙いもある。	
	日本語表現法	就職活動直前の時期ということで、その対策も兼ねた日本語表現法の授業とする。キャリアプランとの重複をいわず、説得力あるエントリーシートの書き方、企業への自己推薦文、志望理由文などの書き方を習得させる。また、就職活動の実践に役立てるべく、で習得させた小論文と作文の実践練習も再度行い「について800字で書け。制限時間1時間」といった設定で、繰り返し書かせる授業も行う。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
教養科目	海外自由研究	外国語の大学等に1学期間留学する学生は、渡航前および留学中に関係教員の指導を受け、提出した課題について自ら計画的に学修し、その成果を帰国後提出しなければならない。関係教員は、その成果を評価し、本科目の単位を認定するものとする。	
	海外自由研究	外国語の大学等に1年間(2学期間)留学する学生は、渡航前および留学中に関係教員の指導を受け、提出した課題について自ら計画的に学修し、その成果を帰国後提出しなければならない。関係教員は、その成果を評価し、海外自由研究に加えて、本科目の単位を認定するものとする。	
	【留学生科目】		
	日本語コミュニケーション技術	この授業は、日本で充実した留学生活を送るために必要な日本語によるコミュニケーション技術を学ぶことを目的とする。特に「話す」ということに焦点を当て、今より一段階上の「話し上手」「聞き上手」になることを目指す。学生ひとりひとりの発話を多くするため、授業は講義形式ではなくグループワークを中心に行う。また、コンピュータを使った教育方法も取り入れながら、発音練習も行う予定である。	
	日本語コミュニケーション技術	この授業では、さまざまな場面に必要な日本語によるコミュニケーション技術の習得を目指す。特に「話す」ことに焦点を当て、場面や話す相手によって、使い分けなければならないスピーチスタイルや日本語の表現を学習する。授業は、グループでのディスカッションやロールプレイなどを中心に行う。より自然な日本語の使用を目指し、授業では、必要に応じ、テープ・ビデオ教材なども使用する。	
	教養日本文化	オノマトペの日本語例文作成、写真で表現するオノマトペ制作をへて、今学期は日本語に特徴的な表現を辞典から抜き出し、その意味するところを一枚の写真に撮りおさめて、表象国語辞典のようなものを作ってみる。単なる文例によってでなく、肉体的に日本語と格闘することによって、心身一体となり日本語への理解を深める一端としたい。	
	教養日本文化	第二次世界大戦後日本の広告文化史、紙媒体の広告を扱いながら広告表現と世相・社会の関係性に着眼し、その歴史的プロセスをたどる。「時代」と「流行」の誕生を考える、あるいは広告の「社会性」を考える。	
	教養日本文学	この授業では、古典文学と呼ばれる文学作品の中から『源氏物語』『平家物語』など、特に有名なものを紹介し、その魅力を伝える。また紹介するにあたっては、当時の社会や文化についても取り上げることで、受講生の理解と興味が深まるように配慮する。奈良時代から江戸時代までのおよそ千年の間に、どのような文学が日本で生まれたのか、学んでもらいたい。	
	教養日本文学	日本にはどのような文学があり、どのような作家がいるのだろうか。この授業では、夏目漱石、森鷗外、芥川龍之介、太宰治といった近代を代表する作家とその作品を主に紹介する。各作品の一節を実際に読むことで、近代日本文学の魅力を体得してもらう。また近代から現代までの文学の流れを概観することで、専門科目「日本文学研究入門」「日本文学研究特論」への橋渡しともする。	
	教養日本社会	新聞やテレビ報道などから現代日本社会の情勢に触れ、自国との相違点についてそれぞれが考えたことを報告しながら、日本社会の現状を正しく理解していく。また、日本の伝統的な行事や習慣、日本人の考え方などに関する資料をもとに、「日本人」「日本」について理解を深めていく。	
	教養日本社会	日本社会で学んだことを元に、日本社会と同様、新聞やテレビ報道などから現代日本社会の情勢に触れ、自国との相違点についてそれぞれが考えたことを報告しながら、日本社会の現状を正しく理解していく。また、日本の伝統的な行事や習慣、日本人の考え方などに関する資料をもとに、「日本人」「日本」について理解を深めていく。	
	日本伝統文化実習	留学生を対象に、日本の伝統文化や芸能の中から書道、着付け、日本舞踊、茶道、生け花などについて紹介する。留学生が実際に体験する機会も設けながら、日本文化についての理解を深める。	
	日本伝統文化実習	留学生を対象に、日本の武道、特に合気道や相撲などをとりあげ、紹介する。留学生が実際に体験する機会も設けながら、日本文化についての理解を深める。	
	【キャリア支援科目】		
	キャリアプランニング	多種多様な実業界から講師を招き、体験に基づいた講義を行ってもらう。講義の中から「大学で学んだものが社会でどのように役立つのか」を学ばせ、在学中に「何を学び、どんな目標を設定するのか」「日々、具体的に何をなすべきか」を考えさせる。この過程で問題発見能力なども研鑽させる。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
教養科目	キャリアプランニング	「社会に出るとは、働くとはどういうことか」「自分は何になりたいのか」。多種多様な職業を熟知させることで「なりたい自分」をしっかりと把握させる。同時に、「なりたい自分」を追求する前提となる、社会で求められる種々の基本的スキルをつけさせる。例えば、情報収集力、論理的な思考力、コミュニケーション力などの基本を鍛える。実業界からの講師のほか、本学内の教員にも講義・演習に参加してもらう。	
	キャリアプランニング	3年秋学期の授業ということで、就職活動の実践につながる内容とする。実際の就職活動を具体的に説き、その流れに沿いながら、インターネット利用のエントリー方法、エントリー・シートや履歴書の書き方、面接の受け方、SPIなどの筆記試験対策を重ねる。これを4年次からの就職活動へと繋げていく。	
	インターンシップ	「教育（学生生活）から職業（社会人）への移行モデル」として、官公庁や企業等において、将来のキャリアに関連した就業体験を行う。夏期休暇期間中を主に10日間前後実施する。受講者には、事前研修への出席、研修日誌の提出、事後報告会への参加等を義務づける。以上の要件を満たしたものに対しては所定の単位を認定する。	
	【単位互換科目】		
	（「N CEキャンパス長崎」科目および特別講座）	長崎県下の大学間協定単位互換システムに従って履修した他大学の授業科目の単位、および別に定める特別講座を履修して修得した単位を認定する。	
専門科目	【異文化国際理解プログラム】		
	文化人類学	世界の諸民族・諸文化に関する現地調査と比較研究に基づく異文化理解の方法としての文化人類学について入門的な講義を行う。フィールドワーク、文化の概念、文化の比較、家族・親族論、ジェンダー・セクシュアリティ論、呪術・宗教論、医療人類学などの文化人類学研究の基本的諸テーマについて、世界諸地域の事例に基づき解説する。	
	文化人類学	世界の諸民族・諸文化に関する現地調査と比較研究に基づく異文化理解の方法としての文化人類学について入門的な講義を行う。多文化接触、エスニシティ論、民族の動態、開発と文化変化、グローカリゼーション、ポストコロニアリズムなどの現代世界と今日の文化人類学が直面する諸問題について、世界諸地域の事例に基づき解説する。	
	異文化間コミュニケーション	異文化間におけるコミュニケーションを円滑に行うために、言葉の習得以外に必要な要素は何かを学んでいく。この授業では、コミュニケーションの仕方に多大な影響を与えている文化的規則や、思考パターンを左右する価値観、習慣などを日本と比較し、そこに見られる類似点、相違点を共に認識できるようにする。これらを認識した上で、国際人というのはどういう資質を備えていなければならないか考えていく。	
	異文化間コミュニケーション	異文化間コミュニケーションをより効果的に行うためには、自分のコミュニケーション行動について深く知らなければならない。この授業では、異文化間コミュニケーションIに引き続き、さらに自己文化に関して深く掘り下げてみていきながら、我々日本人が異文化間でのコミュニケーションを進めて行く中で遭遇しそうな問題を考察していく。また、海外在住の日本人や在日外国人などに関わる具体的事象を取り上げ、異文化との接触により実際に起こっているコミュニケーション上の諸問題を考察していく。	
	言語学	特定の言語ではなく、言語一般に関する基礎知識を伝授し、人間言語そのものについて関心を深めさせることを目的とする入門講義である。この講義では、「言語とは何か・言語学とはどういう学問か」ということを概観した後、発声のしくみ（音声学）と、言語のもつ記号的な側面、すなわち音の構造（音韻論）・語の構造（形態論）・文の構造（統語論）をそれぞれ取り上げ解説する。この講義を通して、人間のこばを科学的に分析する方法の一端を習得させることを最終目標とする。	
	言語学	「言語学」に引き続き、特定の言語ではなく、言語一般に関する基礎知識を伝授し、人間言語そのものについて関心を深めさせることを目的とする入門講義である。この講義では、言語の意味（意味論・語用論）を取り扱った後、世界の言語の多様性・普遍性（比較言語学・対照言語学）・言語と社会の関わり（社会言語学）・言語の習得（心理言語学）・言語の起源・文字の発達など、言語の文化的側面も取り上げ解説する。この講義を通して、専攻言語と母語の共通点や相違点を広い視点から捉えなおすことができるようになることを最終目標とする。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専 門 科 目	国際関係論	この授業では、現在の国際関係の基本的枠組が形成された、18世紀末から第二次世界大戦までの時期における国際関係を勉強していく。具体的には、以下のような、18世紀末から第二次世界大戦までの時期に起こった、国際関係における重要な出来事を学んでいく。 アメリカ独立戦争とその波及効果、フランス革命、ナポレオンの盛衰、産業革命、市民革命、ドイツとイタリアの統一、アメリカにおける「フロンティアの消滅」、アメリカ南北戦争、オスマン・トルコ帝国の衰退とアラブの民族運動、ロシアの南下政策、アジア・アフリカの植民地化、帝国主義列強による世界の分割、第一次世界大戦、ロシア革命の意義、ヴェルサイユ体制矛盾、国際連盟の破綻、世界恐慌とファシズムの台頭、第二次世界大戦など。	
	国際関係論	この授業では、現在の国際関係を理解する上で極めて重要な、第二次世界大戦後から現在に至るまでの時期における国際関係を勉強していく。具体的には、以下のような、第二次世界大戦後から現在に至るまでの時期に起こった、国際関係における重要な出来事を学んでいく。 戦後処理をめぐる米ソの対立、国際連合の成立、東ヨーロッパの社会主義化、ベルリン分割、「封じ込め」政策、冷戦の始まり、朝鮮戦争、「巻き返し」政策、アジア・アフリカ諸国の独立、「ミサイル・ギャップ」論争、中ソ対立、キューバ危機、ベトナム戦争、ド・ゴールの挫折、米中和解、オイル・ショック、ニクソン・ショック、「強いアメリカ」の出現、ペレストロイカ、冷戦の終焉、「平和の配当」の幻想、地域紛争の頻発、「文明の衝突」、「テロとの戦い」、グローバル化、「中国の時代」、資源・環境問題の深刻化など。	
	比較文化論	文化人類学を中心とする比較文化の方法を踏まえながら、諸文化のなかでの人間の誕生から死、死後の世界に至るまでの一連の過程について比較考察する。世界の諸文化・諸社会の事例に基づき、子どもと大人、男と女、生者と死者などのトピックについて、伝統的なあり方から現代における変容までを視野に入れて論じる。	
	比較文化論	文化人類学を中心とする比較社会・文化研究の方法を踏まえながら、人間社会における家族・親族を中心とする集団・人間関係の多様性と共通性について比較考察する。世界の諸民族・諸社会の事例に基づき、伝統的な家族・親族のあり方から現代社会における人間関係・ネットワークの変容までを視野に入れて論じる。	
	長崎文化論	長崎は鎖国時代の外国への「窓」として、異文化交流の町という特異な歴史をもつ。長崎市の発達は、異文化を取り入れて日常生活に消化してきた庶民の生活史としてとらえることができる。平穏な生活に、異文化の刺激が加わったとき、衝撃を受け、さまざまなドラマを生み出していく。その「文明の衝突」と「異文化の受容」を、考えてみたい。 長崎文化論 では、1570年の長崎開港から1800年までの期間において、キリシタン文化、唐人文化、オランダ文化が長崎の町民文化のなかに、いかに受け入れられたかを見ていく。	
	長崎文化論	長崎文化論 を引き継ぎ、 では、1801年以降、1945年までの時代を見ていく。オランダ文化、中国文化のなかにほかの西洋諸国の文化がいかに加わっていったか。安政の開国で、長崎に影響を与えたイギリス、ロシア、アメリカ、フランスなどの文化を、現在に残る文化遺産にその足跡をもとめながら学習していく。	
	言語とグローバリゼーション	「言語」を視座にすえて、多様な学問分野からのアプローチにより、言語と社会、言語と文化との関連を考察する。ボーダーレス化が進み、モノだけでなく、ヒトや情報も軽々と行き交う時代にあっても、世界はいぜんとして多民族・多文化がゆるやかに混み合う空間を形作っています。また一方ではそれが喪失を生み出してもいます。こうした現実にあって「言語」とどのように向かい合えばいいのか、多言語社会と一言語世界は何を生み出していくのかを探究する。	
	表象文化論	テキストのみならず画像や映像、音声など、芸術・文化事象全般に及ぶ対象を、多様な学問分野からのアプローチによって、その対象と私たちとの関係性においてとらえ直し、それがいかにして構築され得るのかを考察する。	
	比較宗教学	この授業は、世界の諸宗教の多様性を認識し尊重しつつ、諸宗教・異文化に対する謙虚さ・寛容さを身につけることをねらいとする。授業では、客観的な立場から、世界の主要な宗教（キリスト教・ユダヤ教・イスラム教・仏教・ヒンドゥー教・儒教等）および日本の宗教について概説し、その歴史・礼拝・教典・宗教生活・文化等を概観する。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専 門 科 目	比較宗教学	この授業は、宗教史の基礎的知識および諸宗教・異文化に対する謙虚さ・寛容さを身につけることをねらいとする。授業では、世界の主要な宗教（キリスト教・ユダヤ教・イスラム教・仏教・道教・ヒンドゥー教・儒教等）および日本の宗教の歴史を学び、現代の社会にインパクトを持つ「宗教」というファクターが世界史の中でどのように展開してきたのかを客観的に考察する。	
	文化政策論	地域文化の振興、文化財の保存・活用などの文化政策の変遷、現状と課題を考察するとともに、文化創造活動等を支援するための具体的な文化政策について、その背景やプロセス、問題点等を検討し、政策の形成と実現の方策を考察する。	
	国際協力論	グローバル化における先進国と途上国との格差に起因する問題と、国際平和と国際協力について、人口問題、食糧問題、資源・エネルギー問題などを取り上げ、全体的な援助の仕組み、開発戦略や開発理論についての基礎的な知識を学びながら、その解決のための国際協力の仕組みやそのあり方について考察する。	
	英語圏地域研究	英語圏の特定された地域について、歴史的・文化的観点から考察することによって通時的理解を深める。	
	英語圏地域研究	英語圏の特定された地域について、その社会と抱える諸問題を考察することによって共時的理解を深める。	
	異文化国際理解演習	現代社会を多文化・多言語の並存と共存のパースペクティブからとらえ、これに関わる今日的な諸問題を取り上げて様々な事例から現状を認識することを目的とする。	
	異文化国際理解演習	異文化国際理解演習 をふまえて、 においては履修学生による問題の発見と調査、分析をへて展望へといたることによる異文化国際理解を目的とする。	
	英語圏海外セミナー	セミナーは次のような3つの部分からなる。 (1) 本学における1学期間の授業：英語圏での研修・生活に必要な心構え、生活習慣の違い、大学生活で必要な英語の表現について指導する。 (2) 英語圏の姉妹校である各大学での語学学習と週末の小旅行：3週間の語学研修に加え、当該地域の歴史・地理・文化的特徴を知るための機会をもうける。 (3) 滞在中に行う自由研究および帰国後のレポートの提出：学生は、1学期間の授業を通し、滞在中に研究するテーマを決め、事前調査を行い、また滞在中に研究したことを帰国後レポートにまとめ提出する。	
	英語圏海外セミナー	セミナーは次のような3つの部分からなる。 (1) 本学における1学期間の授業：英語圏での研修・生活に必要な心構え、生活習慣の違い、大学生活で必要な英語の表現について指導する。 (2) 英語圏の姉妹校である各大学での語学学習と週末の小旅行：3週間の語学研修に加え、当該地域の歴史・地理・文化的特徴を知るための機会をもうける。 (3) 滞在中に行う自由研究および帰国後のレポートの提出：学生は、1学期間の授業を通し、滞在中に研究するテーマを決め、事前調査を行い、また滞在中に研究したことを帰国後レポートにまとめ提出する。	
	【国際ビジネスプログラム】		
	会計学	会計の技術的基盤となる簿記の基本について理解することを目的とする。簿記の最終目標は、貸借対照表と損益計算書と呼ばれる財務諸表を作成することである。財務諸表は、世界中の企業が作成公表している。本講義で学ぶ簿記の一連の手続きは財務諸表を見ると、その背後にある企業活動をイメージすることに役立つであろう。	
	会計学	企業は、一期間の経営成績を損益計算で、決算時点の財政状態を貸借対照表にまとめ公表する。本講義は、この財務諸表の中の代表的な項目を取り上げ、その意味、評価方法、背後にある理論などを説明する。これらの知識は、企業の成績表といわれる財務諸表を読む基本となる。	
	経営学	1990年代以降、政治、経済の両面において国際環境が大きく変化を遂げ、いわゆる経済のグローバル化と言われる現象が顕著となり、大半の企業は激しい国際競争に巻き込まれている。このような環境における企業経営を踏まえた上で、経営戦略論、経営組織論、さらには最近注目されているベンチャー企業経営や産学官連携についても考察する。	
	経営学	経営学 に引き続き、現代の企業経営を巡る動向、ビジネスプラン、経営戦略、経営組織、ベンチャー企業経営、産学官連携についてより深く学ぶ。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目	金融論	お金の役割、銀行の役割など、金融に関する基本的な事項を、体系的に講義する。金融の知識は、我々が生活するうえで欠くことのできないものだが、専門的な勉強をしないと、単に新聞等を読むだけでは理解することは難しい。本講義では金融論の基礎を理論的に考察する。	
	ビジネス英語	さまざまなビジネス・シーンにおける英語会話・口頭表現に習熟する。	
	ビジネス英語	電話・E-mail・FAXなどの通信手段で使われる英語の知識とコミュニケーション技術に習熟する。	
	ビジネス英語	会議、交渉、プレゼンテーションに必要な英語の知識と技術に習熟する。	
	ビジネス英語	さまざまな英文ビジネス文書（履歴書、契約書やビジネスレター）に関する知識と技術に習熟する。	
	英語ビジネス情報	インターネット、新聞、雑誌などの英語メディアを通して、ビジネス情報を収集する方法にを身につけ、ビジネス英語に習熟する。	
	英語ビジネス情報	国際化する企業の動機や特徴、海外進出後に直面する諸問題などについてさまざまな英語媒体を通して学び、ビジネス英語に習熟する。	
	国際経済論	国際貿易がそれぞれの国に与える影響を、国際経済学の基礎的な知識を基に理論的に理解することを目的とする。そのために、ミクロ経済学の基礎的な分野を最初に学習し、それを用いて貿易の影響を考える。	
	国際金融論	為替レートの日本経済に与える影響や、為替レートの変動要因について学習する。そのために、マクロ経済学の基礎的な事項を前半で講義し、それらを用いて為替レートに関する経済的な事象を教授する。	
	国際企業論	企業が国際化する動機や国際企業の特徴、海外進出後に直面する諸問題などについて幅広く学習し、問題解決に向けての論理的思考方法を修得してもらう。国際企業行動の戦略的側面を重視した講義とする。	
	【観光ホスピタリティプログラム】		
	観光学概論	授業の目的は、観光に関する基礎的・基本的な知識・能力を取得することにある。いわば観光についての全般的な入門科目である。総合的・学際的・多面的な観光の分野の中から、主として観光の地理、歴史、文化、事業という観点から取り組む。観光の概念、観光の歴史、観光資源、世界遺産、観光事業、宿泊業、旅行業、交通業、観光関連産業、観光法規、観光地域計画、国際観光、観光文化などである。	
	観光学概論	観光学概論Iで学習した内容を元に、最近の観光産業の現状と将来を考えて行く。観光が単なる旅行に止まらず、国の施策として促進活動や、自然保護、弱者の参加しやすい旅行など、幅広く変容してきている。この観光・旅行を多面的にとらえ、詳細なデータによる実態分析、観光地の開発や行政の動向など、観光の全体像を学ぶこととする。	
	観光英語	この授業は、国際観光事業に従事する者およびこれを志す者の英語能力の向上を図ることを目的とする。海外旅行で役立つ英語、海外旅行で必要かつ観光・旅行の仕事で役立つ観光英語の運用能力を高める。	
	観光英語	この授業は、「観光英語」で学んだ内容を進める。国際観光事業に従事する者およびこれを志す者の英語能力の向上を図ることを目的とする。海外旅行で必要かつ観光・旅行の仕事で役立つ英語から国際観光事業に従事する際に必要となる実務レベルの英語の運用能力を高める。	
	エアラインホテルサービス論	この授業では、ホテルや空港で活躍するさまざまな職業を研究し、サービス業に関わる仕事とはどのようなものなのかを考える。サービス業に求められるホスピタリティーとは何かを知り、サービス業務担当者に求められる資質を身に付ける。また、日本のサービスと他国のサービスを比較し世界の習慣の共通性、特異性を考える。	
	ビジネス実務総論	この授業では、ビジネスや経営学全般にわたる基礎的な知識や実践的な理論の取得を身につけることを目的とする。実際のビジネスや経営の場で、理論的知識や技能をいかに結びつけていけばいいのか、そのための経営管理の学説や、経営組織の形態、マーケティングなどの経営戦略、リーダーとフォロワーの関係など、実社会の実務に役立つ知識を身に付け、社会でのビジネスライフな業務をこなす理想的なビジネス実務士の養成を主眼とするものである。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目	ビジネス実務総論	この授業では、「ビジネス実務総論」で学んだ知識を元に、ビジネス・ワーカーとして、自らの能力、才能を生かし、期待される企業の人材となるために、ビジネスに関する知識を身につける。実際のビジネス現場、ビジネス活動に関する理解を深めるとともに、就業意欲の向上、職業観の明確化を促すことをねらいとする。本講義では、ビジネスワークの基本に加え、ビジネスワーカーの役割と職能、要請される知識・技能およびパーソナリティ、さらにＩＴ化、国際化等加速化する職場環境の変化を踏まえた今後の課題等について、ビジネスワーカーの立場から考察する。	
	旅行業務	旅程管理主任者資格のための所定の課外講座を受講し、所定の条件を満たした場合に、「旅行業務」として単位を認定する。	
	旅行業務	旅程管理主任者資格のための所定の課外講座のうち「実地研修」を受講し、所定の条件を満たした場合に、「旅行業務」として単位を認定する。	
	旅行業務	この授業では、旅行業約款・その他の関連約款や、国内旅行実務を学ぶ。併せて、国家資格「国内旅行業務取扱管理者」試験合格をめざすこととする。自己学習ではわかりにくい、「ＪＲ運賃計算や業法・約款など、過去問などを使い丁寧に解説する。旅行業務Ⅳで「総合」をめざす人もその最初のステップとして国内を取得することにより、総合を受験する際に一部科目免除を受けることが出来る。	
	旅行業務	この授業では、旅行業務で学んだ知識を元に、海外旅行に関する実務を学ぶ。併せて、国家資格「総合旅行業務取扱管理者」試験合格をめざす。国際航空運賃計算やトーマスクック・航空機時刻表などの使い方も丁寧に解説する。国家試験合格を目指すための勉強であるが、旅行業界に興味のある人も役に立つ内容である。	
	観光通訳ガイド演習	観光通訳ガイド実習の目的や、その概要を理解するとともに、英語による観光ガイド案の作成、基礎的な観光通訳ガイド技術の習得、模擬観光通訳ガイドを行い、「観光通訳ガイド実習」の準備を行う。	
	観光通訳ガイド演習	「観光通訳ガイド演習」で学んだ学習を進める。事前リサーチ・観光ガイド案作成を行い、観光通訳ガイド実習準備を行う。実際に長崎市内で実習を行い、収録ビデオや当日の記録を基に、クラスで反省会を行う。ピア・レビューやグループ討議を通じて、振り返りを行い、より良い観光通訳ガイドになるための課題を考察する。	
	エアラインホテル英語	この授業では、航空業界、旅行業界、ホテル・レストラン業界で用いられる英語表現、用語を学習する。エアラインやホテル、観光業務等における、様々な場面に応じた基本的な英語表現を学習する。英字新聞などから、日本、世界の国々に関する最新情報を取り入れ、実際の業務に役立つ知識を得る。	
	エアラインホテル英語	この授業では、「エアラインホテル英語」で学んで内容を進める。ホテル・レストラン業界で広く求められるホスピタリティー・マインドを、英語で発揮しうる語学力を身につける。各界の成功者が物したエッセイ等を題材として、ホスピタリティー、カスタマーサービスについて英語で学ぶ。そうした学習を通して、英語による自己表現力を鍛えるとともに、ホスピタリティー産業に就業する人材としての基礎作りをする。また、外国人のゲストに対して、英語を使って日本文化の紹介ができる力も身につける。	
	デジタル資料作成技術	この授業は、「デジタル教材作成技術」の履修に必要な機材を紹介し、その操作技術に慣れることを目的としている。操作技術には、Windowsの操作、各種専門ソフトの操作、スキャナ、プリンタ、タブレット等の周辺機器の操作、デジタルカメラやビデオカメラの撮影技術とデータの取り込み等が含まれる。	
	デジタル資料作成技術	この授業は、「デジタル資料作成技術」で得た技術を用い、学生各自の興味に応じたデジタルコンテンツの作成を指導する。学生各自は課題のデータを二種類作成していく。課題となるデータは、コンピュータで加工したテキスト・静止画を使った作品と、動画・音楽などを組み合わせた作品になる予定である。	
	【通訳・翻訳プログラム】		
	通訳の理論と技法	この授業では、まず、通訳に関する諸理論を概観し、通訳という行為について、異文化間コミュニケーションの視点から考察する。また、通訳の形態・種類・メカニズムについて確認し、翻訳との類似点・相違点について学習する。さらに、通訳者に求められる資質と能力とは何かを知り、通訳の技法について理解を深める。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目	翻訳の理論と技法	この授業では、まず、翻訳論に関する教科書を講読し、異文化を訳することとしての翻訳の原理を学ぶ。さらに英語独特の言い回しで翻訳する際に一工夫を必要とするものを一通り、確認する。その後実践演習として、様々なジャンルで使われる英語に触れ、毎回新しい英文に当たり、日本語らしく翻訳するための訓練を行う。優れた翻訳をサンプルとして取り上げ、学生の翻訳との比較検討も行う。	
	逐次通訳演習	この授業では、通訳者に求められる基本技術、各分野の知識と用語、効果的な表現力、正確な理解力、分析力を学ぶ。異文化間コミュニケーションにおける、ファシリテーターとしての通訳の役割を確認した上で、英日・日英逐次通訳の基礎訓練を行う。クイックリスpons・サイトトランスレーション・シャドーイング・リプロダクションなどの訓練法を学び、実践する。英日通訳では、通訳作業の前提となる英語の情報保持・処理能力の向上に重点を置き、日英通訳では、日本語に引きずられないよう平易な英語を駆使してメッセージを伝える練習を行う。	
	逐次通訳演習	この授業では、「逐次通訳演習」で学んだことをさらに深める。英日通訳では、英語を聞いて「何となく分かる」レベルから、「はっきりと分かる」レベルに引き上げることを目的とする。日英通訳では、話し手の意図を「正確に」理解・伝達するレベルから、聞き手にとって最も「効果的」な英語表現ができるようになることを目的とする。また、より専門的な分野の素材を用いることで、各分野の背景知識を習得する。	
	翻訳演習	この授業の目的は、英文から日本語への翻訳における基本的な技能を身につけることである。授業では、文意をふまえた上での英語の単語ひとつひとつの正確な理解から、文単位の翻訳までの基礎的な訓練を行う。教材は、比較的難易度の低い英文で書かれたエッセイ、小説、新聞や雑誌の記事などから適宜選ぶ。	
	翻訳演習	この授業は、「翻訳演習I」に引き続き、日英翻訳の技能習得を目的とする。翻訳の実践演習として、自然・社会科学、ジャーナリズム、エッセイ、文学（小説、詩）などから文化に依存する度合いの異なる数種類のテキストを選び翻訳の訓練をおこなう。原文の個性を活かしつつ、日本語らしさを追求するための翻訳技能について検討する。	
	翻訳演習	この授業は、「翻訳演習」に引き続き、日英翻訳の技能習得を目的とする。環境・医療・教育・国際関係・ビジネス等、専門的なテキストを扱うことにより、各分野独特の表現・専門用語を習得する。また、各分野に関連するリーディングを行い、翻訳に必要な専門背景知識を習得する。	
	翻訳演習	この授業は、日本語から英語へ翻訳するための技能習得を目的とする。まず、翻訳をする立場から、英作文の知識を総復習し、留意しなければならない日本語独特の言い回しを一通り確認する。その後、実践演習として、自然・社会科学、ジャーナリズム、エッセイ、文学等の日本語素材を課題として、英語らしく翻訳するための訓練を行う。	
	翻訳実習	この授業では、実習を通し、翻訳実務により直結した実践的な訓練を行う。学内の各種文書（HP・ニュースレター・掲示物・留学生対象ハンドブック等）を英文へ翻訳、あるいは海外協定校からの通信・資料等を日本語へ翻訳することにより、読み手（日本人学生・留学生）を意識した翻訳技能の習得を目指す。	
	翻訳実習	この授業では、「翻訳実習I」に引き続き、実社会における、より実践的な翻訳業務・研修を行う。翻訳現場で求められる知識・技能を高めるとともに、翻訳業務の一連の流れや、翻訳者として求められる姿勢・視点・ビジネス・マナー等を学ぶ。	
	同時通訳演習	この授業では、逐次通訳で修得した技術を更に高め、同時通訳の入門訓練を行う。クイックリスpons・サイトトランスレーション・シャドーイング・リプロダクションなどの訓練法を継続するとともに、同時通訳を可能にする訳出の戦略についても考察を行う。また、様々な分野の素材を取り上げながら、分野・テーマ別の専門語彙の収集方法を学ぶ。	
	同時通訳演習	この授業では、「同時通訳演習I」に引き続き、同時通訳の訓練を行う。分野・テーマ別専門語彙を増強するとともに、通訳者に必要な事前準備・リサーチスキル・情報の編集方法について考察を行う。事前リサーチを必要とする、やや専門性の高い素材を取り上げ、通訳者としてのリサーチスキルやリーディング力養成を行う。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専 門 科 目	同時通訳演習	この授業では、「同時通訳演習 / 」で学んだことを更に発展させ、国際会議での式辞挨拶訓練、ビジネス通訳、会議通訳などの場面を想定した同時通訳の訓練を行う。各分野の背景知識を深めるためのリーディングやディスカッションも並行して行う。	
	同時通訳演習	この授業は、「同時通訳演習 ~ 」で習得した同時通訳訓練の集大成として位置づけられる。難易度の高い素材を取り上げ、迅速で正確、また聞き手にとって最も効果的な訳出ができる通訳を目的とする。	
	同時通訳実習	この授業では、学内におけるチャペルアワー等の同時通訳実践を通し、通訳実務により直結した訓練を行う。実際に、話し手と聞き手を意識することで、単にことばを訳すだけではなく、コミュニケーション・ファシリテーターとしての役割を再確認する。また、通訳の現場に臨むことで、通訳業務に必要な一連の流れを体験し、通訳者として求められる姿勢・視点・ビジネス・マナー等を学ぶ。	
	同時通訳実習	この授業では、「通訳実習I」に引き続き、実社会における、より実践的な通訳業務・研修を行う。通訳現場で求められる知識・技能を高めるとともに、プロの通訳として求められる技能レベル・資質について再考察する。	
	【英語専門職プログラム】		
	英米文学入門	英米における代表的な作家と文学作品（詩、劇、散文など）を取り上げ、それぞれの作家・作品が生まれた時代背景・文化的特性とあわせて概観する。これにより主要な英米文学の作品についての基礎的知識と理解を深めさせることを到達目標とする。	
	英米文学入門	英米における代表的な作家と文学作品（詩、劇、散文など）を取り上げ、それぞれの作家・作品が生まれた時代背景・文化的特性とあわせて概観する。これにより主要な英米文学の作品についての基礎的知識と理解を深めさせることを到達目標とする。取り上げる作品・作家は「英米文学入門」と異なるものとする。	
	英米文化研究入門	イギリスおよびアメリカの重要な文化的諸相についての基礎的な知識を修得する。歴史的なトピックと現代的なトピックの両方を扱うこととし、今日のイギリスやアメリカが、どのような歴史を経て現在に至るのかを理解させる。	
	英米文化研究入門	イギリスおよびアメリカの重要な文化的諸相についての基礎的な知識を修得する。歴史的なトピックと現代的なトピックの両方を扱うこととし、今日のイギリスやアメリカが、どのような歴史を経て現在に至るのかを理解させる。「英米文化研究入門」で扱うトピックとは異なるものとする。	
	英語学入門	英語という言語の成り立ち・変種、および英語の音韻・形態・統語・意味構造など英語研究の諸分野を概観する。また、他のヨーロッパ言語との比較や、日本語との対照研究も含む。	
	英語学入門	英語という言語の成り立ち・変種、および英語の音韻・形態・統語・意味構造など英語研究の諸分野を概観する。また、他のヨーロッパ言語との比較や、日本語との対照研究も含む。「英語学入門」で扱わなかった項目をカバーするものとする。	
	英語音声学	英語という言語の音声的特徴を学ぶ。英語における子音・母音の分類、音調パターン、発音記号を習得させる。単なる音声学的知識としてではなく、実際に適切な英語の発音ができるようになることを到達目標とする。	
	児童心理学	本講義では、幼児・児童期の子どもの心理や行動の発達に関わる基礎的事項を、主に、認知的・社会的・言語的側面から学ぶ。次に、具体的課題として、子どもの問題を取り上げ、子どもの発達にとってどのような環境が適切であるかについて考察する。さらに、児童の身辺状態は子どもの心理状態を反映しているものであるという立場から、心理面のサポートのみならず、身辺や環境まで踏み込んだ心身両面のケアの重要性について議論を行い、子どもの成長に対する理解を深めていく。	
	第二言語習得論	本講義では、第二言語習得論(Second Language Acquisition)に関する基礎的な知識を整理・理解し、国内外の最近の研究成果を基に、第二言語習得のプロセスや習得にかかわる諸要因(たとえば臨界期)に検討を加え、言語習得の複雑性を論じていきます。また、英語教育の観点から第二言語習得を考察し、英語を第二言語として習得する場合と外国語として習得(学習)する場合の相違点や問題点を明らかにし、さらに、英語の四技能や個人差の視点から、効果的英語学習法を考えます。	
	英米文学研究演習	英米文学における特定の作家もしくは作品を取り上げ、それらについて深く考察する。取り上げられた作家もしくは作品の研究を中心としつつ、それが生まれた時代の考察や文化的背景などの周辺領域も考察対象とする。	

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専 門 科 目	英米文学研究演習	英米文学における特定の作家もしくは作品を取り上げ、それらについて深く考察する。取り上げられた作家もしくは作品の研究を中心としつつ、それが生まれた時代の考察や文化的背景などの周辺領域も考察対象とする。取り上げる作品・作家は「英米文学研究演習」と異なるものとする。	
	英米文化研究演習	英米文化における特定のテーマやトピックを扱った専門書または論文を精読することによって、選択された項目について考察し、深い知識を得ることを目標とする。	
	英米文化研究演習	英米文化における特定のテーマやトピックを扱った専門書または論文を精読することによって、選択された項目について考察し、深い知識を得ることを目標とする。「英米文化研究演習」で扱うトピックとは異なるものとする。	
	英語学研究演習	英語学分野における特定のテーマやトピックを扱った専門書または論文を精読することによって、選択された項目について考察し、深い知識を得ることを目標とする。	
	英語学研究演習	英語学分野における特定のテーマやトピックを扱った専門書または論文を精読することによって、選択された項目について考察し、深い知識を得ることを目標とする。「英語学研究演習」で扱うトピックとは異なるものとする。	
	児童文学絵本研究	児童文学・絵本は、世界の多くの国で書かれ、子どもたちに、また、大人にも読まれている。本講義では、まず、世界の名作に対する一般的知識を整理・理解し、具体的な作品鑑賞を通し、名作がもつ魅力や可能性等を教育的立場より論じていく。次に、子どもの発達段階を踏まえ、どのような本や絵本を選び、使えば、教育的効果が得られ易いかを考察する。さらに、児童文学や絵本そのものに対する理解を深めた上で、実際に読み聞かせを行い、指導上どのようなことが問題になり、また、それらを解決するためにはどのような知識・技能が必要であるかを考えていく。	
	早期英語教授法	本講義では、早期英語教育の理念や目的等を最近の小学校英語教育をめぐる議論・流れや、諸外国の教育事情を基に論じる。次に、早期英語教育に関する現場の実情や問題点を明らかにし、早期英語教育の在り方を学校や社会的視点から考察する。さらに、英語学習や英語指導に関する様々な研究成果を取り入れ、発音指導や物語の読み聞かせなどの具体的場面を設定し、効果的な指導方法や学習者の発達段階に応じた評価方法を学んでいく。	
	早期英語教授法	本講義では、早期英語教授法Ⅰでの学習事項をベースに、効果的教授法を具現化する教材の作成・編成方法を学ぶ。まず、早期外国語教材編成の原理に関する知見を整理・理解し、具体的指導場面における教材の種類・質などに検討を加え、子どもに英語を教える際重要になってくる教材の扱いのポイントを理論面と実践面から考察する。次に、シラバスの編成原理に関する基礎的事項に基づき、教授法およびそれを支える教材の効果的使用方法を代表的な指導場面（福笑い等）の中で学ぶ。	
	幼児児童英語教育実習	「早期英語教授法Ⅰ/Ⅱ」で学んだ知識を基に、保育園等で英語指導実習（事前準備を含む）を行う。まず、英語指導実習に対する基礎的知識・心構え等を確認し、指導案の作成方法を学ぶ。次に、学内で模擬授業を行い、グループディスカッション等により問題点・改善点を明らかにし、その解決方法を考える。十分に事前準備ができた後、学外の教育施設で英語指導実習を行う。実習後は、授業内容を収録したDVDを見て反省会を開き、今後の英語指導実習に備える。	
	【留学科目】		
	社会文化特別研究	留学によって得た学修成果を所定の方法によって評価し、単位を認定する。	
	社会文化特別研究	留学によって得た学修成果を所定の方法によって評価し、単位を認定する。	
	【プロジェクト】		
	現代英語グローバルプロジェクト	「異文化・国際理解」、「国際ビジネス」、「観光ホスピタリティ」、「通訳・翻訳」、「英語専門職」の各分野または分野横断的な領域に関するプロジェクトを設定し、プロジェクト遂行のための実践活動を通して、英語力、コミュニケーション能力、専門知識の総合化を図る。	
	現代英語グローバルプロジェクト	「異文化・国際理解」、「国際ビジネス」、「観光ホスピタリティ」、「通訳・翻訳」、「英語専門職」の各分野または分野横断的な領域に関するプロジェクトを設定し、プロジェクト遂行のための実践活動を通して、英語力、コミュニケーション能力、専門知識の総合化を図る。学科横断的なプロジェクトを設定する場合もある。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目	【特別演習】		
	特別演習	「異文化・国際理解」、「国際ビジネス」、「観光ホスピタリティ」、「通訳・翻訳」、「英語専門職」の各分野を柱としながら、それぞれ専門教育の完成を目的として演習を行う。	
	特別演習	特別演習 を基礎として「異文化・国際理解」、「国際ビジネス」、「観光ホスピタリティ」、「通訳・翻訳」、「英語専門職」の各分野を柱としながら、それぞれ専門教育の完成を目的として演習を行う。	
	【卒業研究】		
	卒業研究	学科専門領域の、準備的な研究を行い、その成果をレポート等により提出する。別に定める方法により、所定の単位を認定する。	
	卒業研究	学科専門領域の、より進んだ研究を行い、その成果を論文等により提出する。別に定める方法により、所定の単位を認定する。	
語学科目	【CORE科目】		
	Grammar & Vocabulary I	英語 4 技能修得の土台となる英文法と語彙を習得するための科目である。この授業では、初級者用英文法テキストを用いて、英語によるコミュニケーションに生かせる英文法の知識を身につけさせること、および英語の基礎語彙600語までを完全に習得させることを目標とする。	
	Grammar & Vocabulary II	Grammar and Vocabulary Iに引き続き、英語 4 技能修得の土台となる英文法と語彙を習得するための科目である。この科目では、初級者用英文法テキストを用いて、英語によるコミュニケーションに生かせる英文法の知識を身につけさせること、および英語の基礎語彙1200語までを完全に習得させることを目標とする。	
	Grammar & Vocabulary III	Grammar and Vocabulary IとIIで学習する内容を習得していると見なされる学習者のための科目である。この科目では、中級者用英文法テキストを用いて、英語によるコミュニケーションに生かせるさらに高度な英文法の知識を身につけさせること、および英語の基礎語彙1800語までを完全に習得させることを目標とする。	
	Grammar & Vocabulary IV	Grammar and Vocabulary IIIに引き続き、中級者用英文法テキストを用いて、英語によるコミュニケーションに生かせるさらに高度な英文法の知識を身につけさせること、および英語の基礎語彙2400語までを完全に習得させることを目標とする。	
	Listening I	英語を聞き取る基礎的な能力を養成するための科目である。学習到達目標はConversation Iのレベルに準じ、簡単な英語（初歩的挨拶表現・初歩的定型表現・簡単な招待表現など）を聞いて理解することが出来るようになることである。	
	Listening II	英語を聞き取る基礎的な能力を養成するための科目である。学習到達目標はConversation IIのレベルに準じ、簡単な英語（多様な初歩的挨拶表現・一般的に使用される初歩的定型表現など）を聞いて理解することが出来るようになることである。	
	Listening III	英語を聞き取る標準的な能力を養成するための科目である。学習到達目標はConversation IIIのレベルに準じ、標準的な英語（一般的に使用される慣用表現や多様な定型的表現、人物・場所・モノの描写など）を聞いて理解することが出来るようになることである。	
	Listening IV	英語を聞き取る標準的な能力を養成するための科目である。学習到達目標はConversation IVのレベルに準じ、標準的な英語（多様な定型的表現、一般的な日常の場面で用いられる会話）を聞いて理解することが出来るようになることである。	
	Listening V	英語を聞き取る高度な能力を養成するための科目である。学習到達目標はConversation Vのレベルに準じ、多様な英語（一般的に使用される慣用的表現や日常の場面で用いられるさまざまな会話）を聞いて理解することが出来るようになることである。	
	Listening VI	英語を聞き取る高度な能力を養成するための科目である。学習到達目標はConversation VIのレベルに準じ、多様な英語（時事的な出来事や興味のある分野に関係した会話など）を聞いて理解することが出来るようになることである。	
	Reading I	基礎的な英語読解能力を養成するための科目である。学習到達目標は、単文、重文を中心に構成された短い文章を読み、各文の文法構造を正確に把握し、意味を理解することができるようになることである。	
	Reading II	Reading I に引き続き、基礎的な英語読解能力を養成するための科目である。学習到達目標は、単文、重文を中心に構成された短い文章を読み、各文の文法構造を正確に把握し、意味を理解することができるようになることである。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
語学科目	英語科目	Reading III	標準的な英語読解能力を養成するための科目である。学習到達目標は、関係詞を含む文など、やや複雑な構造の文の文法構造を正確に把握し、意味を理解することができる。段落のトピックセンテンスを見つけることができる。段落内部の構成を理解することができるようになることである。	
		Reading IV	Reading III に引き続き、標準的な英語読解能力を養成するための科目である。学習到達目標は、分詞構文・仮定法を含む、正式な文書で使用する文法事項について、それらを使った文の文法構造を正確に把握し、意味を理解することができるようになることである。	
		Reading V	高度な英語読解能力を養成するための科目である。学習到達目標は、文章の論理展開を意識しながら、時事的な題材を扱った易しい教材を読むことができる。英語の取扱説明書、旅行ガイド、オンラインショッピングサイトなど、日常生活に密着した文章を読むことができるようになることである。	
		Reading VI	Reading V に引き続き、高度な英語読解能力を養成するための科目である。学習到達目標は、特に英語学習者用に編集されたものでない英文も、身近な話題を扱った難易度の低いものであれば読むことができ、要約することができる。200w/mの速読をすることができるようになることである。	
		Conversation I	口頭による基礎的な英語発信能力を養成するための科目である。学習到達目標は、第一言語の発音、単語、間投表現からの干渉をうけることなく、簡単な英語で話すことができるようになることである。	
		Conversation II	Conversation I に引き続き、口頭による基礎的な英語発信能力を養成するための科目である。学習到達目標は、完全な文で話すことが適切な場合には完全な文で話し、可能な場合には追加の情報を提供し、場合によっては定型的な表現中の語彙を変更することができる。第一言語の発音、単語、間投表現からの干渉をうけることなく、簡単な英語で話すことができるようになることである。	
		Conversation III	口頭による標準的な英語発信能力を養成するための科目である。学習到達目標は、ほとんどためらいなく質問に回答し、詳細な情報を提供することが適切な場合には詳細な情報を含む文法的に適切な文で話し、対話者と相互に言葉を交わすことによって、よく知っている話題についての簡単な会話を維持することができるようになることである。	
		Conversation IV	Conversation III に引き続き、口頭による標準的な英語発信能力を養成するための科目である。学習到達目標は、ほとんどためらいなく質問に回答し、詳細な情報を提供することが適切な場合には詳細な情報を含む文法的に適切な文で話し、対話者と相互に言葉を交わすことによって、よく知っている話題についての簡単な会話を維持することができるようになることである。	
		Conversation V	口頭による高度な英語発信能力を養成するための科目である。学習到達目標は、ほとんどためらいなく流暢に話し、正確な発音で話し、多様な語彙と複雑な表現を使用することができるようになることである。	
		Conversation VI	Conversation V に引き続き、口頭による高度な英語発信能力を養成するための科目である。学習到達目標は、ほとんどあるいはまったくためらいなく流暢に話し、適切に音調を変えて正確な発音で話し、ほとんど誤りなく多様な語彙と複雑な表現を使用することができるようになることである。	
		Composition I	書き言葉による基礎的な英語発信能力を養成するための科目である。学習到達目標は、完全な文で考えを表現することができるようになることであり、具体的には以下のことができるように指導する。 ・主部名詞句と述部動詞句をもった完全な単文を書く。 ・単文を組み合わせ、等位接続詞を用いて重文を作り、従属接続詞を用いて複文を作る。 ・活字体と筆記体を判別し、判読可能な活字体で文字を書く。 ・和英辞典を用いて自分の表現したい内容に近い英語表現の候補を探し、英和辞典を用いてその候補の用例を参照し、候補中から適切なものを選択する。 ・基本的な正書法の規則を知っていて、その規則に従って文を書く。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
語学	英語科目目	Composition II	Composition I に引き続き、書き言葉による基礎的な英語発信能力を養成するための科目である。学習到達目標は、完全な文で考えを表現することができるようになることであり、具体的には以下のことができるように指導する。 ・動詞形の選択において重大な誤りなく、単文を書く。 ・単文を結合し、適切な接続詞を用いて重文・複文を作り、適切な区切り符号を用いて節の順序を変える。 ・段落の topic sentence を見つける。 ・段落内の文を意味ある順序に並べ、文連結の副詞を効果的に用いる。 ・判読可能な活字体で文を書き、筆記体の文を読む。 ・基本的な正書法の規則を知っていて、その規則に従って文を書く。	
		Composition III	書き言葉による標準的な英語発信能力を養成するための科目である。学習到達目標は、以下のことができるようになることである。 ・描写、過程描写、比較対照、意見論述などの多様な説明文形式において、3～5文からなる単段落の説明文を作文すること。 ・基本的な一段落作文書式に従って作文すること。 ・主題文を設定し、考えを整理・構成して提示し、多様な文構造を使用し、つなぎ言葉を用いて話の筋に一貫性をもたせること。	
		Composition IV	Composition III に引き続き、書き言葉による標準的な英語発信能力を養成するための科目である。学習到達目標は、以下のことができるようになることである。 ・描写、過程描写、比較対照、意見論述などの多様な説明文形式において、6～10文からなる単段落の説明文を作文すること。 ・基本的な一段落作文書式に従って作文すること。 ・主題文を設定し、考えを整理・構成して提示し、多様な文構造を使用し、つなぎ言葉を用いて話の筋に一貫性をもたせること。	
		Composition V	書き言葉による高度な英語発信能力を養成するための科目である。学習到達目標は、以下のことができるようになることである。 ・比較対照、時間的順序と手順、原因分析、意見論述など多様な説明文形式において、事前準備なしでの作文でも、文法や正書法における機械的に修正可能な誤りがほとんどない3～4段落の小論文を書くこと。 ・明確かつ読者の興味を引くトピックセンテンス、および効果的な導入と結論を作成し、指定された種類の誤りを校正で見つけ訂正すること。	
		Composition VI	Composition V に引き続き、書き言葉による高度な英語発信能力を養成するための科目である。学習到達目標は、以下のことができるようになることである。 ・指示、意見表明、意見の支持、特徴描写、原因・結果、比較・対照、叙説などの多様な説明文形式において、事前準備なしでの作文でも、重大な誤りがほとんどない5段落からなる作文を書くこと。 ・一つの作文中での複数の異なる説明文文体を使用し、作文中の全段落の内容を作文の中心的論題に関係付けること。	
		Basic English Seminar I	Composition I、Reading I、Conversation I で学習した内容を復習するとともに、これらの科目で設定されている到達目標（作文能力・読解能力・口頭表現能力）を確実に達成させるための総合的な英語科目である。	
		Basic English Seminar II	Composition II、Reading II、Conversation II で学習した内容を復習するとともに、これらの科目で設定されている到達目標（作文能力・読解能力・口頭表現能力）を確実に達成させるための総合的な英語科目である。	
		Basic English Seminar III	Composition III、Reading III、Conversation III で学習した内容を復習するとともに、これらの科目で設定されている到達目標（作文能力・読解能力・口頭表現能力）を確実に達成させるための総合的な英語科目である。	
英語科目目	英語科目目	Basic English Seminar IV	Composition IV、Reading IV、Conversation IV で学習した内容を復習するとともに、これらの科目で設定されている到達目標（作文能力・読解能力・口頭表現能力）を確実に達成させるための総合的な英語科目である。	
		EPT Seminar I	英検・TOEICなどの英語資格試験対策を行なう科目である。各種試験の解法テクニックを学ぶとともに、英語の聴解・読解・語彙・文法を習得することを学習目標とする。	
		EPT Seminar II	EPT Seminar I に引き続き、英検・TOEICなどの英語資格試験対策を行なう科目である。各種試験の解法テクニックを学ぶとともに、英語の聴解・読解・語彙・文法を習得することを学習目標とする。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
語学科目	英語科目	EPT Seminar III	英検・TOEICなどの英語資格試験対策を行なう科目である。各種試験の解法テクニックを学ぶとともに、英語の聴解・読解・語彙・文法を習得することを学習目標とする。EPT Seminar I/IIより上位の級やスコアを目指す科目とする。	
		EPT Seminar IV	EPT Seminar III に引き続き、英検・TOEICなどの英語資格試験対策を行なう科目である。各種試験の解法テクニックを学ぶとともに、英語の聴解・読解・語彙・文法を習得することを学習目標とする。EPT Seminar I/IIより上位の級やスコアを目指す科目とする。	
		【ACE (Advanced Communicative English) 科目】		
		Critical Reading I	この科目は、書かれている英文を単に読解するのではなく、内容を批判的に読む訓練を行なうための科目である。文学作品を読んで作品の主題、作者の表現手段の選択、作品の歴史的背景を理解し、作品を批判的に評価することができるようになることを到達目標とする。	
		Critical Reading II	Critical Reading I に引き続き、書かれている英文を単に読解するのではなく、内容を批判的に読む訓練を行なうための科目である。文学作品を読んで作品の主題、作者の表現手段の選択、作品の歴史的背景を理解し、作品を批判的に評価することができるようになることを到達目標とする。	
		Theme Writing I	書き言葉による標準的な英語発信能力をさらに発展させる訓練を行なうための科目である。具体的には以下の到達目標を掲げる。 ・統計量の比較・対照、理由の説明、情報の分類、意見の論述などの、学術的著作において一般的に使用される作文方略を多種類利用して、多様な論題について、複数の段落からなる小論文を作成することができる。 ・考えを整理・構成し、適切な導入・論題陳述・結論を作成し、段落間の内容的結束を維持して作文することができる。 ・論文作成に必要な調査を実施し、参考文献を適切に利用することができる。	
		Theme Writing II	Theme Writing I に引き続き、書き言葉による標準的な英語発信能力をさらに発展させる訓練を行なうための科目である。具体的には以下の到達目標を掲げる。 ・統計量の比較・対照、理由の説明、情報の分類、意見の論述などの、学術的著作において一般的に使用される作文方略を多種類利用して、多様な論題について、複数の段落からなる小論文を作成することができる。 ・考えを整理・構成し、適切な導入・論題陳述・結論を作成し、段落間の内容的結束を維持して作文することができる。 ・論文作成に必要な調査を実施し、参考文献を適切に利用することができる。	
		Debate I	ディベートの構造や方法についての基礎的な訓練を行なうための科目である。正式な手続きに従った討論の取り決め事項を遵守しつつ、統制と規則に拘束される状況で討論を行い、討論において成功するために必要な自己統制をすること、さらに自分の主張の妥当性を示す材料を収集するための調査を行い、ある種の方略を討論での防御と攻撃の支援に利用することができるようになることを到達目標とする。	
		Debate II	Debate I に引き続き、ディベートの構造や方法についての基礎的な訓練を行なうための科目である。正式な手続きに従った討論の取り決め事項を遵守しつつ、統制と規則に拘束される状況で討論を行い、討論において成功するために必要な自己統制をすること、さらに自分の主張の妥当性を示す材料を収集するための調査を行い、ある種の方略を討論での防御と攻撃の支援に利用することができるようになることを到達目標とする。	
		Public Speaking & Presentation I	聴衆を前にしたスピーチやプレゼンテーションの訓練を行なうための科目である。姿勢、視線、身振り、声の韻律と抑揚などを適切に制御して、聴衆を前にして話すことができるようになることを到達目標とする。	
		Public Speaking & Presentation II	Public Speaking & Presentation I に引き続き、聴衆を前にしたスピーチやプレゼンテーションの訓練を行なうための科目である。姿勢、視線、身振り、声の韻律と抑揚などを適切に制御して、聴衆を前にして話すことができるようになることを到達目標とする。	
		Current Topics in the World I	英語による新聞や雑誌・テレビニュースなどのメディアを通して、世界のさまざまな時事問題について理解を深めるための科目である。時事問題を題材として、英語による討論や個人的な意見を表明できるようになることを到達目標とする。	

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
語学科目	英語科目	Current Topics in the World II	Current Topics in the World IIに引き続き、英語による新聞や雑誌・テレビニュースなどのメディアを通して、世界のさまざまな時事問題について理解を深めるための科目である。時事問題を題材として、英語による討論や個人的な意見を表明できるようになることを到達目標とする。	
		English in Music & Film I	英語圏におけるさまざまなジャンルの音楽や映画を教材として英語を学ぶ科目である。音楽や映画における英語の歌詞やセリフを聞き取れるようになるだけでなく、扱われた音楽や映画を通して、英語圏の文化への理解を深めることを科目の到達目標とする。	
		English in Music & Film II	English in Music & Film Iに引き続き、英語圏におけるさまざまなジャンルの音楽や映画を教材として英語を学ぶ科目である。音楽や映画における英語の歌詞やセリフを聞き取れるようになるだけでなく、扱われた音楽や映画を通して、英語圏の文化への理解を深めることを科目の到達目標とする。	
		Critical Reading III	Critical Reading I/II で身につけた批判的読解能力をさらに発展させる訓練を行なうための科目である。より高度な批評文や文学作品を読んで、評価できるようになることを到達目標とする。	
		Critical Reading IV	Critical Reading III に引き続き、批判的読解能力をさらに発展させる訓練を行なうための科目である。より高度な批評文や文学作品を読んで、評価できるようになることを到達目標とする。	
		Debate III	Debate I/II で習得した技術をもとに、さらに高度なディベートができるようになるための科目である。高度に構造化された討論を行うことができ、情報を収集・整理し、討論において有用であり、かつ、討論において役立つ特有の言語表現を使用し、主張の論理的構造の分析を行い、討論での発表原稿を作成することができるようになることを到達目標とする。	
		Debate IV	Debate III に引き続く、さらに高度なディベートができるようになるための科目である。高度に構造化された討論を行うことができ、情報を収集・整理し、討論において有用であり、かつ、討論において役立つ特有の言語表現を使用し、主張の論理的構造の分析を行い、討論での発表原稿を作成することができるようになることを到達目標とする。	
		Writing & Presentation I	効果的な講演・発表を行うのに適切な発表材料を準備する方法を学ぶ科目である。また、報告文書から材料を収集し、それを要約することで効果的な口頭発表に変えることができるようになることも学ぶ。	
		Writing & Presentation II	Writing & Presentation Iに引き続き、効果的な講演・発表を行うのに適切な発表材料を準備する方法を学ぶ科目である。また、報告文書から材料を収集し、それを要約することで効果的な口頭発表に変えることができるようになることも学ぶ。	
		Dramatic Acting I	英語劇を練習し、実際に演じてみることによって、音声言語としての英語を身体活動とともに覚え、英語による自己表現に自信をつけさせることを目標とする。語劇祭などの学内行事と関連付け、観衆の前で実際に演じることも活動の中に含まれる。	
		Dramatic Acting II	Dramatic Acting Iに引き続き、英語劇を練習し、実際に演じてみることによって、音声言語としての英語を身体活動とともに覚え、英語による自己表現に自信をつけさせることを目標とする。語劇祭などの学内行事と関連付け、観衆の前で実際に演じることも活動の中に含まれる。	
		【留学科目】		
		英語特別実習	留学中（1学期間）の英語学修の成果を評価して所定の単位を認定する。	
		英語特別実習	留学中（1年間）の英語学修の成果を評価して所定の単位を認定	
		【英語能力試験科目】		
		EPT Credits	別に定める基準により、英語能力試験の成果を評価して所定の単位を認定する。	
		EPT Credits	別に定める基準により、英語能力試験の成果を評価して所定の単位を認定する。	
		EPT Credits	別に定める基準により、英語能力試験の成果を評価して所定の単位を認定する。	
		EPT Credits	別に定める基準により、英語能力試験の成果を評価して所定の単位を認定する。	